

会長の時間 ●富田会長

本日から会長の時間を1年間務めさせていただきますので宜しくお願い致します。直前会長がロータリーについて素晴らしい講義を尽くして頂きましたので、ロータリー概論は既に十分かと存じます。作家の五木寛之は、新聞で連載小説を始めるに当たり、先輩作家の石坂洋二郎は連載開始時点ですべての原稿が揃っていたのに自分は毎週、締切に追われながら書いていると自身を揶揄するエッセイを書いていたのですが、私も早くから会長の時間の原稿を用意する必要を意識しながらも結局、毎週原稿と格闘する事になりました。

さて、会長の時間を始めるにあたり、西洋最大の哲学者プラトンの著「国家」に触れたいと思います。プラトンはこの著で、理想的な国家の形態を上から順に5つ上げています。即ち、1. 哲人王による哲人政治、2. 貴族による名誉政体、3. 金持ちによる寡頭政治、4. 今の日本同様の民主政体、そして、最後に絶対的な僭主による独裁政治ですが、この様にプラトンは、民主主義を独裁政治と共に底辺政治とし、民主政治が独裁政治を生むとも述べています。そして、哲人政治と独裁政治は一人が頂点に立つ点では同じですが、リーダーに徳や正義があるかどうかで違くと述べ、また、プラトンは国家を支える最重要事として哲人やエリート層の理性つまり、「正義の支配」を強調した上で、これが軍と産業の3つが揃うことで、国家が良く治まる理想としています。

プラトンは同時に民主政治について「快い生活」とする一方で、「国家」と「国民」は相関があり、国家の運営は両者に責任があると指摘しています。プラトンは、この様に民主主義の欠点を考慮した上で、「哲人政治」を讃え、指導者が哲学(徳)を持たなければ国が治まらない事、国を治める以前に自己を節制しなければならないこと、哲学者や指導者を育てるのには教育が重要であると説いています。

ロータリーは、勿論、「国家」ではなく、また、民主主義を積極的に支持する立場ですが、夫々の職場や地域に対して責任を持つリーダーの集まりです。リーダーは、徳のある哲人であることが理想です。一般にリーダーの養成機関がない以上、ロータリーが徳を磨く心の修行の道場として果たす役割は大きいのではないのでしょうか。

これからの1年、会員の皆様の貴重なお時間をお借りして、「ロータリーとは何か」を皆様と共に考え、「奉仕の理想」について、会長の時間でお話できれば幸いと存じます。

最後に、チャーチルの有名な言葉を紹介します。「実際の処、民主主義は最悪の政治形態だ。但し、これまで試みられてきた民主主義以外のあらゆる政治形態を除けば、だが。」これを持ちまして会長の時間を終わります。ご清聴有難うございました。